

INSIDE-OUT

木二中 学校だより No.20 令和5年9月25日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



「忘己利他」[もうこりた]-己を忘れて他を利する「利他の心」とは

天台宗（仏教）の法話の中に、「忘己利他」〈もうこりた〉＝[己（おのれ）を忘れて他を利する]という教えがあります。これは、『己を忘れて他を利するは慈悲（じひ）の極（きわ）みなり』という伝教大師最澄〈でんぎょうだいしさいちょう〉のお言葉でもあります。

最澄と言えば、平安時代初期、比叡山延暦寺〈ひえいざんえんりゃくじ〉を建立し日本で最初に天台宗を開いた開祖であり、また伝教大師として広く知られている人物でもありますね。最澄については、「空海」〈くわかい〉と合わせて中学1年次に社会（日本の歴史）で学ぶ内容ですから、みんな知っているはず…だと思います。

「他を利する」という言葉の「利」は、文字通り「利益」の他に「喜び」、「幸福」を表すので、「他を利する」とは、自分以外の他者を喜ばせる、幸せにする、そんな「行い」や「思い」のことを言います。比叡山延暦寺の令和3年の言葉「自他同心」〈じたどうしん〉の中にも「他人を自分のことのように思うこと」（忘己）と記されています。

困っている人がいれば、手を差し伸べたり、悩んでいる人がいれば、耳を傾けたり。助けを必要としている人のために行動を起こすなど、どれも人として大切なことだとは思いますが、必ずしも誰もがそのようにできるわけではない。助けることができないことだって当然あるでしょう。それはなぜか。人それぞれできることとできないことがあるからです。それでもこの混沌（こんとん＝物事が無秩序でまとまっていない状態のこと）とした世の中であって、他者を思いやるには、「自分にできることは何かを考え、少しでも他者の力になれるよう行動することや他者を思うこと」が大事なのではないかと、思うのです…。悲しいことに変化の激しいこの時代において、そう行動することに大きな「痛み（傷み・悼み）」（＝いたみ）がともなうのも事実です。

慈善活動などさまざまな社会活動を行っている人や団体が、SNSを筆頭にネット上で叩かれるというニュースを耳にしたことはありませんか？有名人や芸能人が慈善団体などに多額の寄付や自費でボランティア活動をするとなれば「売名行為だ」、「偽善だ」と集中砲火を浴びてしまうニュースを目にしたことはありませんか？なにも有名人や芸能人に限ったことではない。ただ純粹に他者を思い手を差し伸べる行為に対して、「何か裏がある」とか、「（自分の方に）取り込もうとしている」と陰でささやき、手を差し伸べる行為だけでなく、手を差し伸べたその人をもターゲットにして「無自覚」に悪口・陰口を言う人が世の中には一定数いるのが事実でもあり、その一定数の人たちが自身に悪口・陰口を言っているという自覚がないからこそ、吐いた言葉が人の心を傷つける刃〈やいば〉と化してしまう。

中学生のみんなは、それをどう思いますか？寄付やボランティア活動をはじめ、他者が利する行為を行う人はすべて聖人君子〈せいじんくんし＝知識にすぐれ、人徳がある。世の中の模範と言われるような人のこと〉でなければならぬのだろうか？

残念ながら我が国、日本の現代社会は、自身を省みることはおろか、他者や周囲を考えずに自分だけが利することばかりを考えるという風潮がないとは言えない。仏教の世界では、それを「我利我利」〈がりがり＝自分の利益と得しか考えないこと〉と呼ぶそうで、そのような考え方下では決して幸せにはなれないと戒めています。反対に、「自利利他」〈じりりた＝利他に心がけていると相手だけでなく巡り巡って自分にも喜び・幸せが返ってくるという考え〉といって、常に他者を思いやる生活を心がけていると、自分も他者も喜び、幸せになれると説いています。

校長としてだけでなく、一人の大人として、人として、少なくとも今私の身の回りにいる木二中学生のみんなの生活が、後者、「自利利他」であってほしい。他者を見下し、悪口・陰口を止めず、感謝の心もなく、平気で人の心を土足で踏みじることができ、そんな人間に、そんな大人になってほしくない。そう切に願っています。『己を忘れて他を利するは慈悲（じひ）の極（きわ）みなり』木更津二中をもっともっと良い学校にしていきたいと思います。何をするにも常に他者への思いやりを大切にしながら。